



第 004 号 2020 年 6 月 17 日 丹後耕造

抱き合え、この接吻を全世界へ

鴨長明による方丈記の書き出し「ゆく川の流は絶えずして、しかも、もとの水にあらず」を思い出します。コロナは、この「もとの水にあらず」を否応無く受け入れることを迫っています。お釈迦さまは、「およそ過ぎ去ったものは、既に捨てられたものである」と、説法しています。我々は、修行者ではありませんが、これまでの「当たり前の日常」は、この「捨てられたもの」です。

3 密は、ある意味、これまでの社会の成長ドライバーでした。一方、ソーシャルディスタンスは、規模の縮小が迫られるなかでの均衡点の模索です。ソーシャルディスタンスのガイドラインに沿うと、供給不足が成長のボトルネックになる可能性があります。また、コロナ感染症に対する恐怖は、観光などの需要面へも深刻な影響を及ぼしています。

IMF は、6 月 1 日、死者が 10 万人を超えた過去の感染症 15 例の分析結果を公表しました。終息から 20 年後まで金利は下降を続け、発生前の水準に戻るには更に 20 年を要したとのこと。終息までに経済・社会が既にボロボロになっていたことが、この回復の遅れの原因と、私は考えます。トランプ大統領は、WHO からの脱退を表明しました。しかし、WHO を中心にして世界が団結してコロナの感染を食い止める以外、全世界の復活への展望は無いと私は思います。

丹後耕造 (元ファンドマネージャー)